

2026.9.23.



NPOフォーラム だより No.124

NPO法人安房文化遺産フォーラム（共同代表：愛沢伸雄, 池田恵美子）

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX：0470-22-8271

E メール awabunka@awa.or.jp 公式サイト <https://awa-ecom.jp/bunka-isan/>

会員・寄付募集中！ 年会費＝正会員 A:10,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円
（ゆうちょ銀行口座：00260-1-97307 名義 NPO 法人安房文化遺産フォーラム）



パイプオルガンと馬頭琴の調べ in かにた礼拝堂

～ パイプオルガン：土屋真穂／馬頭琴：美炎／パーカッション：前田仁 ～

2026.11.23（月祝）13:30～14:45 かにた婦人の村 礼拝堂（96 席）

チケット：前売 3,500 円・当日 4,000 円・小中高 2,000 円

予約：090-6479-3498 または QR コードより申し込みください。



※「噫従軍慰安婦」石碑の見学・参拝をご希望の方は、<https://x.gd/2Sv66>
予約申込のうえ 12:50 礼拝堂前にご集合ください。

主催：かにた婦人の村／共催：NPO 法人安房文化遺産フォーラム

<マンスリー・サポーター募集！>

☆☆ ファンドレイジングのシステムを導入しました。ぜひ応援をお願いします。☆☆

2019（令和元）年に房総半島を直撃した台風の被災以来、新型コロナウイルスのパンデミックに加え、赤山地下壕跡の休壕が続いているため、ツアーガイド事業は激減し NPO 財政は大きく打撃を受けています。この間、皆様の会費や温かいご寄付に支えられ、多岐にわたる調査活動を進展させることができました。改めて感謝申し上げます。とくに昨年度は、ありがたい遺贈金を賜り、厳しい NPO 運営を乗り越えてまいりました。

現在さらに、世界史的につながる安房の地域史に磨きをかけ、調査研究を深めています。充実した活動に発展できるよう、新たな資金調達のための寄付システムを整えました。毎月のひと口支援をご協力いただければ幸いです。単発の寄付も大歓迎です。QR コードまたは NPO ホームページの「入会・支援する」から「寄付をする⇒カード払いはこちら」を開いて登録ができます。金額も選択肢のほか自由に入力が可能です。従来どおりの振込でも大丈夫です。なお、会費支払いもカード払いが可能になりました。ぜひお知り合いにもお声掛けいただき、お力添えのほど何卒よろしくお願い申し上げます。



<https://x.gd/He6dx>

戦後81年

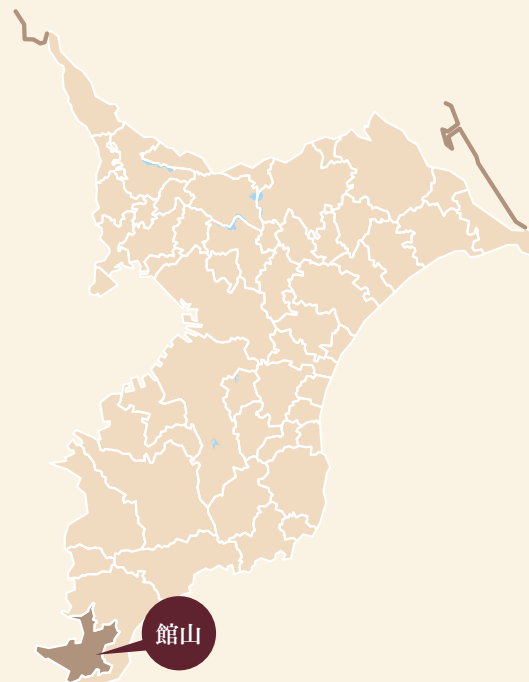
終戦記念日企画「日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざす」

中小企業家同友会の3つ目の目的の中に、中小企業をとりまく外部環境の改善と共に、「日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざす」ことを掲げています。中小企業経営の安定と繁栄は平和な世の中でなければ実現できないという戦中の痛切な教訓を生かしたいという同友会の先達の強い想いが反映されています。

千葉県南部の安房地域で活動する「NPO法人安房文化遺産フォーラム」のスタディツアーガイドに参加し、館山の戦争の歴史と「平和の文化」について学びました。

館山に刻まれた戦争の記憶と、 市民が守り抜いた文化遺産

～歴史を守り続け、未来へつなげる平和の願い～



館山の海岸線に残る戦争の痕跡

東京湾の入口に位置する館山・南房総は、帝都防衛の重要拠点だったため、多くの戦争遺跡が残っています。今回同友会事務局にて、館山湾の北側に広がる大房岬要塞群をめぐるしました。

自然公園の遊歩道を進むと、円形の花壇(写真①)があります。これは、艦船の「砲塔砲台」を陸上へ移設した砲台跡で、射程距離は三浦半島まで届く約18キロメートルとのこと。砲台上部は撤去されましたが、台座部分は非常に頑丈で壊せず、現在は花壇として残されています。すぐそばには、分厚いコンクリートで覆われた半地下の弾薬庫跡があります。上空の敵機から見つかりにくいように、大きな木でカモフラージュされています。



①砲塔砲台跡

直径2メートルの探照灯(大型サーチライト)が設置されていたという照明座跡(写真②)が、地下式コンクリート施設の奥にあります。昇降させ、東京湾を約9キロメートル先まで照らしていたといわれます。展望台からは、すぐ目の前に三浦半島が見えます。

海岸まで降りると、人間魚雷「回天10型」が配備された特攻基地跡があります。使用されることはありませんでしたが、今も海中に残る発射用レールを見ることができます。



②照明座跡

また、その海岸は高さ100メートル近い垂直の絶壁(写真③)で、海軍の秘密部隊がここを登る特殊訓練を行ったそうです。上陸困難な場所から敵地へ侵入するための過酷な訓練であり、墜落して命を落とした隊員もいたといいます。



③訓練に使用された絶壁

市民の力で守られた文化遺産

戦跡巡りのあと、近くのビジターセンターの会議室で、「館山まるごと博物館」というテキストを使った座学を聞きました。

後にNPO法人安房文化遺産フォーラムの代表となる高校の世界史教師がはじめた戦争遺跡の調査や平和教育が、公民館講座から市民の保存運動へ広がったとのこと。一方、1996年に里見氏稲村城跡は道路建設計画によって壊されることが決まり、そこから保存運動が始まります。安房地方に残る城はすべて、険しい山や丘陵の地形を巧みに利用して築かれた山城です。この地域では、「城」と「戦争遺跡」という二つの文化財を守る市民運動が同時に進められました。その成果として、大房岬要塞群は2000年に旧富浦町の文化財に指定され、赤山地下壕跡は2004年に一般公開され、翌年に館山市の指定史跡となりました。

文化財は、国や自治体が自動的に指定してくれるものではなく、価値に気づかなければ残すことはできません。市民が声を上げ続けた結果、戦争遺跡は15年、稲村城跡は17年という長い年月を経て指定に至りました。無指定の状態から指定史跡へ押し上げた取り組みは全国的にも高く評価され、戦後80年を迎えた軍事施設の保存の難しさにも注目が集まりました。こうした市民の運動を支えに、同NPO法人は館山市全体を一つの博物館と捉え、文化遺産の調査・保存、スタディーツアーの実施など多岐にわたるエコミュージアム活動を行っています。地域の活性化と戦争遺跡の保存を両立させる姿勢は、地域の文化を守り未来へつなぐ大きな力となっています。

海のまちに刻まれた戦争の記憶と平和の誓い

東日本の玄関口として重要な役割を果たした房総半島南部は、古くから海を通じて多くの国と交流し、共に生きてきた地域です。1624年に建立された「四面石塔」(写真④)は県指定文化財で、塔の四面には和風漢字・中国篆字・インド梵字・朝鮮ハングルの4カ国の文字で「南無阿弥陀仏」と刻まれています。豊臣秀吉の朝鮮出兵で日本に連れて来られた被虜人が刷還事業により帰還した際、「二度と戦争が起きないように」という平和への祈りを込めて建てられた供養塔ではないかと考えられています。



④四面石塔

一方、戦争末期には本土決戦に備えて7万人もの兵士が送り込まれました。食糧供出のため「花作り禁止令」が出され、花畑を芋畑に変えるよう命じられ、花の種を持つことさえ禁じられました。違反者は非国民として処罰されるほど厳しいものでしたが、命がけで花の種を守り続けた農民がいました。戦後、彼らが守った種から再び花が咲き、「花の房総」がよみがえりました。南房総には、こうした交流の歴史と、戦争の時代に花を守った人々の思い、平和を願い続けてきた地域の姿が受け継がれています。

終戦の影で館山に敷かれた「直接軍政」

日本では8月15日を終戦記念日としていますが、国際的には9月2日が終戦の日とされています。この日は、三浦半島沖に停泊していた米軍艦ミズーリ号で日本の降伏文書調印式が行われた日です。GHQは、その翌朝に「日本語禁止・日本円禁止・反抗者は処罰」という厳しい措置を日本中に発布しようとしていました。しかし外務省の官僚がひと晩かけて直談判して朝6時に保留となり、さらに重光外相がマッカーサー元帥へ直談判した結果、正午に取り消されました。これが「幻の三布告」と呼ばれるものです。

その6時間の間に、館山では重大な出来事が起きていました。3日午前9時頃、アメリカ占領軍3,500名が館山に上陸し、本土で唯一「直接軍政」が敷かれたのです。「米軍ニヨル館山湾地区ノ占領」の指令を出し、あらゆる施設やインフラの機能停止を命じました。この措置は4日間続いたあと徐々に解除され、最終的には歴史に埋もれてしまいました。この事実が明らかになったのは、同NPO法人代表が中学校の教務日誌を調べたとき、9月3日から生徒が出校しておらず、7日によろやく出校していたのです。疑問を抱き調査を進めた結果、真相が明らかになったといえます。



過去を学び、「平和の文化」を未来へつなぐ

国連は、2000年に「平和の文化国際年」を宣言し、紛争を防ぎ、対話を広げる取り組みを世界に呼びかけました。しかし、2001年のアメリカ同時多発テロ事件により、その理念は十分に広がりませんでした。

それでも館山では、同NPO法人のスタディーツアーガイドを通して「平和の文化」を伝えようとする動きが続いてきました。戦争遺跡の保存だけでなく、交流や共生の歴史を学ぶことを大切にしながら、地域に受け継がれてきた平和への願いを未来につなげています。

地域の人々が戦争の歴史を守り続けてきたことで、「平和の文化」を未来へつなぐことができている。多くの人が命がけで平和を願ってきた積み重ねの上に、今の私たちの暮らしがあります。その思いを受け継ぐためにも、歴史を守り続けていくことが大切だと感じました。(事務局 米田)

【オレたち、南房総 BOUSOU 族】

放送日 10 月 20 日（火）22:00～23:00

元放送作家・鈴木おさむさん（南房総市千倉町出身）が進行役を務めるラジオ番組『オレたち、南房総 BOUSOU 族』に NPO 安房文化遺産フォーラム副代表の鈴木政和さんがゲスト出演し、明治期に渡りした房総アワビ漁師をテーマに話されました。日本人初のハリウッド俳優 早川雪洲も千倉出身で、兄がアワビ移民だったこともあり、記念館をつくろう！と盛り上がったようです。放送日以降、インターネット radiko から聴くことができます。乞うご期待！



<https://x.gd/p7K5P>

◇ 第 32 回平和のための戦争展ちば ～武力で平和はつukれない～

9 月 30 日（水）～10 月 4 日（日）10:00～17:00（最終日 15:30）参加費無料

船橋市民ギャラリー 3F 船橋スクエア 21 ビル 船橋駅徒歩 5 分

<展示・催事いろいろ> 過去の戦争を知る ～戦争とはなんだったのか
今日の戦争と平和を考える ～新しい戦前にさせないために

<安房の戦争遺跡
と平和の文化> も
出展します。

◇ 第 68 回千葉県母親大会 in 千葉 / 第 51 回千葉市母親大会（共催）

10 月 3 日（土）10:30-15:30 千葉市民会館 大ホール 参加費 1,000 円（チケットは NPO で販売中）

午前：文化行事 千葉朝鮮初中級学校のみなさん歌と踊り／大熊啓さんと歌おう

午後：講演 安田菜津紀さん（フォトジャーナリスト）

「共に生きるとは何か ～難民の声 家族の歴史から考えた多様性～」

<予告 1>

日韓歴史教育交流シンポジウム

2027.1.23（土）南総文化ホール大会議室

24（日）フィールドワーク

<予告 2>

第 32 回安房地域母親大会

2027.2.6（土）鋸南町中央公民館多目的ホール

講演：加藤登紀子さん

<館山市文化財保存活用計画>

2 年にわたる作成協議会を経て 7 月に文化庁の認定を得ました。本計画にもとづく事業の遂行は国の補助金を受けやすいとのことです。

点検・修復のため休壕が続く赤山地下壕跡（市指定史跡）の早期再開、民有地の掩体壕の管理、里見氏稲村城跡（国指定史跡）の整備と資料館の開設、旧安房南高校木造校舎（県指定文化財）の壁塗装・・・などなど、文化遺産を活かしたヘリテージまちづくりの推進に期待がかかります。

新刊 『大神宮の森へ 2』 羽鳥書店 1,800 円＋税

安房大神宮の森コモンプロジェクト編集。土地に根ざした暮らしのための雑誌。年 2 回発行。

NPO 安房文化遺産フォーラム共同代表の池田恵美子さんも連載執筆。本号は「木造校舎をコモンとして未来へ」。購入希望者は NPO まで。



房日新聞 2026.8.25.

山 市文化財計画 文化庁が認定

安房 2 例目 地域ぐるみで保存・活用へ

地域総がかりで文化財の保護や活用を目指す。館山市の「市文化財保存活用地域計画」が文化庁の認定を受けた。安房地域では鴨川市に続いての例目。2035年度までの10カ年計画で、将来像「歴史文化をまらづくりに活かす街・館山」をふまえて、2018年の文化財保護法改正によって作成が可能になった。

同計画は、各市町村の文化財保護に関する方向性を示すマスタープランと、保存・活用に関する具体的な取り組み内容のアクションプランの両方の役割を担う総合的な法定計画。2018年の文化財保護法改正によって作成が可能になった。

館山市では、24年4月に市文化財保存活用地域計画作成協議会を設置し、2年にわたって作成を進めてきた。

計画では、館山市の歴史文化の特性を「館山の海を通過したヒト・モノ・文化の交流史」と位置付け、仏教文化の広がりや田島氏の軌跡など8つの歴史文化財を指定し、24年4月に市文化財保存活用地域計画作成協議会を設置し、2年にわたって作成を進めてきた。

に分類。この上で、調査や保存体制の強化などを図る。

文化庁の認定を受けることで、計画に明記した事業に対する補助金が受けられるなど、国からの支援を得て事業を推進できるようになる。

計画を中心となって進める市立博物館の職員は、「関係課や観光、文化財団体、文化財所有者を含む市民の皆さんと、協力して文化財の保存、活用を進めていきたい」と話していた。（安井咲子）